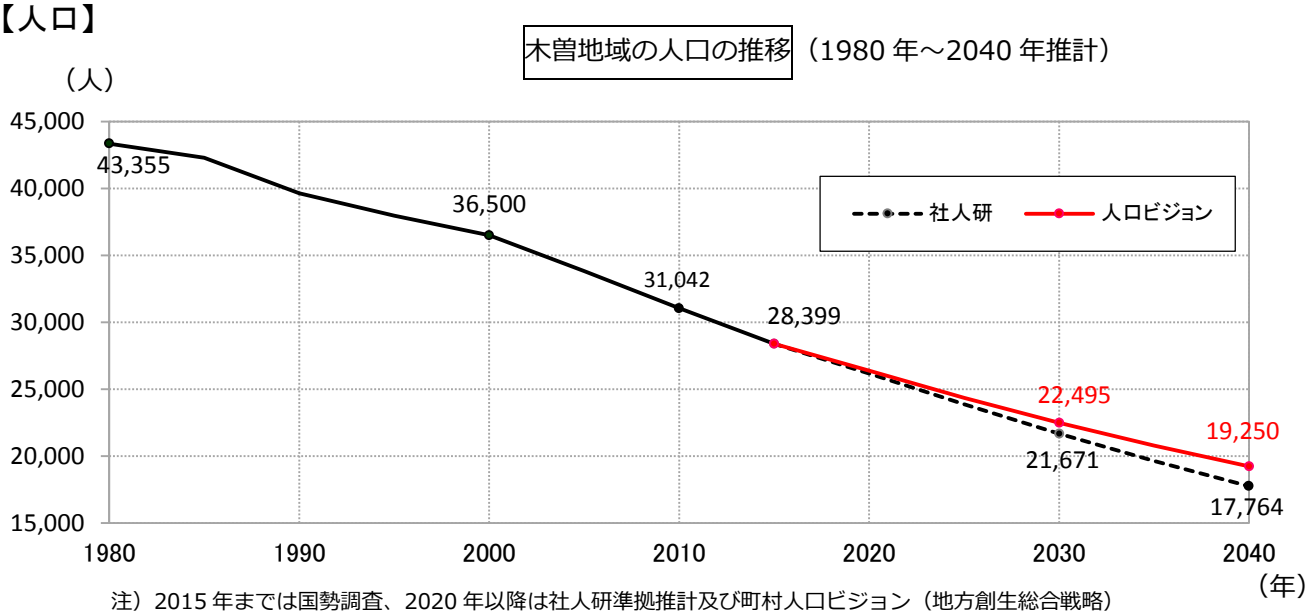
木曽地域（上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村）

木曽地域の特性

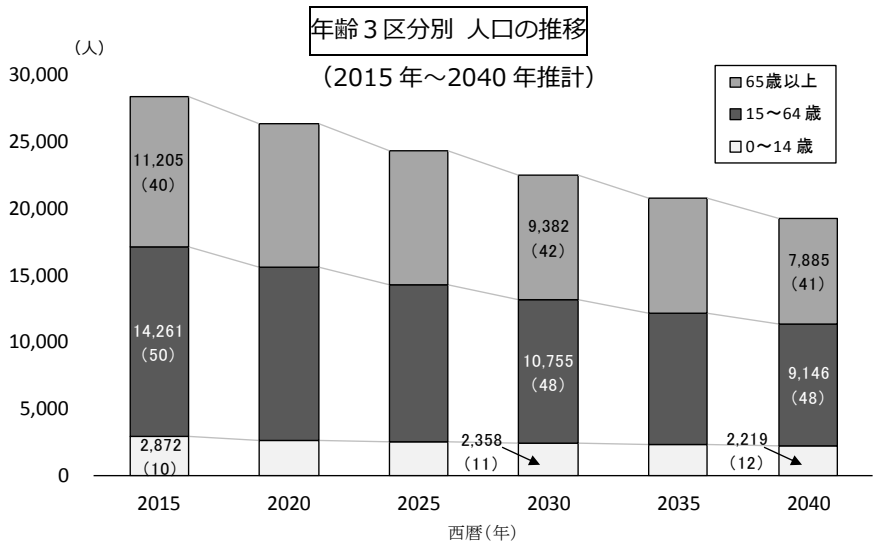
・御嶽山、木曽駒ケ岳や高原、渓谷、美しい星空など、豊かな自然に恵まれています。
・国道 19 号とＪＲが南北に縦断し、中京圏へのアクセスが良好です。また国道 361 号や 256 号が東西を横断し、南信地域や岐阜県高山市などとつながっています。
・木曽川の源流を有し、下流域である中京圏との上下流交流が盛んです。
・面積の約 93%を森林が占め、林業・木工関係の学校等が集積しています。
・「日本遺産」*に認定された旧中山道や宿場、渓谷などの自然美、伝統工芸など優れた観光資源が豊富です。
・人口減少が著しく（H22 国調 31,042 人→H27 国調 28,399 人：△8.5%）、今後、町村の推計でも 2040 年には２万人を下回ると見込まれています。
・活火山である御嶽山麓や山間・谷あいの地域は自然災害のリスクを抱えています。

【管内の概況】

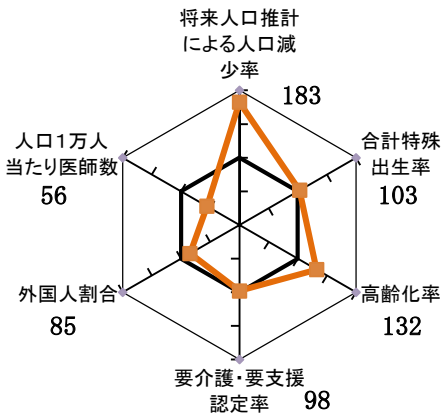
【人口】



注）2015 年までは国勢調査、2020 年以降は社人研準拠推計及び町村人口ビジョン（地方創生総合戦略）

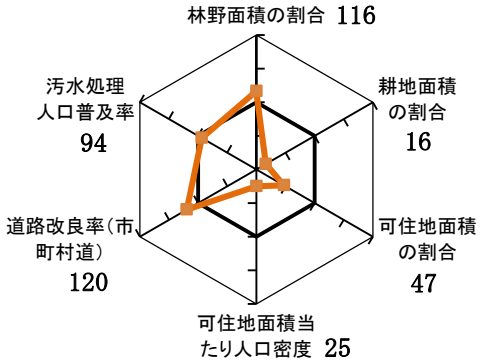


注）1　2015年は国勢調査、2020年以降は各町村推計の合計（一定の政策を講じた場合）
　　2　（　）内は%（表示単位未満を四捨五入しているため合計が100にならない箇所あり）

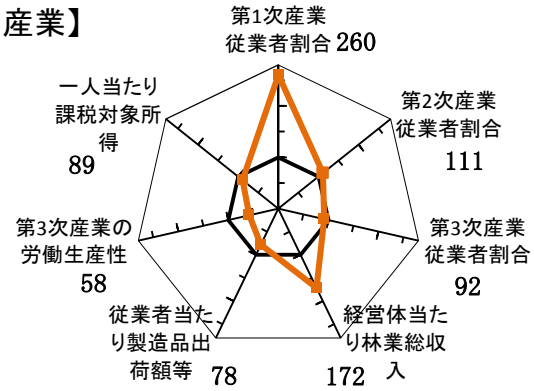


注）レーダーチャートの各指標は長野県全体を100 として木曽地域と比較（指数）

【地勢】



【産業】



【木曽地域の特徴】

【人口】　木曽地域は人口減少率が高く、各町村が人口ビジョンに基づき対策を行うことにより減少幅は緩やかになりますが［折れ線グラフ:赤線］、それでも 2040 年には２万人を切ると見込まれています。また、人口１万人当たり医師数が県平均の約半分と少ない状態です。［レーダーチャート:県 100 に対し 56］

【地勢】　山間・谷あいの地形のため、耕地面積や可住地面積の割合がかなり小さくなっています。
［レーダーチャート:県 100 に対し、耕地面積の割合 16、可住地面積の割合 47］

【産業】　県平均に比べ、第１次産業（農林漁業）従業者の割合が高く［レーダーチャート:県 100 に対し 260］、林業総収入（経営体当たり）も大きい［同 172］一方で、第３次産業の生産性は低い状況です［同 58］。

地域のめざす姿

人口減少下でも「木曽らしい」上質な生活が安全に営め、
自己実現ができる地域であり続けるために

御嶽山が気高くも優しく人々を迎え、木曽川の清流は安らぎを与えている。
圧倒するばかりの山々の緑は、地域に安全と豊かさをもたらしている。
歴史を感じさせる街道のたたずまいに、住民や旅人が優しい眼差しをかわして行き交い、子どもたちが元気な挨拶をして通り過ぎる。
以前にも増して、この地域の景観や雰囲気は、国内外の人々の共感を得るものとなっているようだ。
ここでは、自分が自分でいられる。
夜には息をのむ星々が天空に煌めく山と谷の集落に、穏やかな時が流れている。

広大な森林と木曽川の水源を擁する美しく豊かな自然、街の景観、祭りなどの伝統文化、人と人とのつながりや治安の良さなど、木曽の強み、「木曽らしさ」が木曽の人々により守られ、時を超えて引き継がれています。

御嶽山の防災対策が進み、活火山の特徴を理解しながら多くの登山者が訪れています。
その中で、豊富な地域資源を活かした観光産業や木曽川の上下流交流が地域に活力を生み、住んでよし、訪れてよしの地域づくりが進んでいます。

森林・林業、木材加工業が復興し、地域に豊かさをもたらすとともに、人材育成のメッカとして全国的にも高い評価を得ています。
製造業やサービス業は確かな雇用で地域経済を支え、農業は後継者が育って特色ある営みがなされ、人々は安定した所得を得て暮らしています。

「木曽らしさ」に魅かれた人たちが移住し、自己実現の場を得ています。
若者や子育て世代、人生の先輩など様々な人たちが、地域づくりに積極的に関わっています。
子どもたちはのびのびと育ち、地域を知り、将来の選択肢の中に、地域で暮らす自分を思い描くことができます。
夢の実現に必要となる基本的な力を、地域の小・中・高校、特別支援学校で身に付けることができます。林業大学校、上松技術専門校、信州木曽看護専門学校では、実践的で高度な技能・技術を習得できます。こうして木曽地域で「郷学郷就」が実現しています。

人口減少社会においても、医療、教育、地域交通などの基本的な生活基盤や経済活動基盤が維持され、人々は「木曽らしい」質の高い生活を安全に営んでいます。

地域重点政策

１－１　「木曽らしさ」を活かした地域づくり
～日本の宝である「木曽の森林」や林業・木工関係教育機関等の集積を活かす～

・木曽を日本の林業・木工関係人材育成のメッカとするとともに、地域での就職・起業を促進し人材の定着を図ります。
・林業の体制整備と生産性向上、高付加価値化を進め、産業としての林業振興を図ります。
・伝統工芸など木工技術の継承と木材加工業の展開を支援します。

【現状と課題】

・木曽地域は総面積の 93%を森林が占めています。天然の木曽ヒノキが希少となる一方、高品質な人工林の木曽ヒノキやカラマツの蓄材が進んでいます。
・林業大学校、上松技術専門校、木曽青峰高校という、森を守り、育て、利用する「学びの場」が集積しています。
・林業事業体では人材の確保とともに、林業の高度化・生産性の向上が求められています。

一方、上記学校を卒業後、地元で就業する者は１～２割程度にとどまっています。
・製材業の製品出荷量は低減傾向にあります。また、木を活かした伝統工芸技術も継承に課題が生じつつあります。

【取組内容】

● **林業、木材加工業の高付加価値化　…「地域内６次産業化」を推進**
- 間伐材を丸太のままではなく製材加工するなど、地域内で「付加価値」を高める体制づくりに取り組みます。
- 人工林木曽ヒノキや「信州プレミアムカラマツ」のブランド化を進めます。また、木曽産材の優れた特徴を積極的に発信します。
- 森林整備等にもつながる木質バイオマス燃料の活用を促進します。
- 木曽の優れた人材（クラフトマン）や素材（木曽ヒノキなど）、伝統工芸技術等を活かした新製品の開発とＰＲ、流通体制の整備を支援します。
- 森林浴発祥の地であることを活かし、森林セラピー®*など森や木と触れ合う体験を取り入れた健康と観光との連携を図ります。

● **林業・木工関係人材育成の拠点形成　…「林業・木工を学ぶなら信州木曽へ」**
- 豊かな森林、林業の歴史や技術の蓄積に加え、「学びの場」の集積を活かして、全国でトップクラスの林業・木工関係の人材育成拠点化をめざします。
- 林業大学校、上松技術専門校、木曽青峰高校がカリキュラム等で有機的に連携し、信州大学等の協力も求めながら、木曽の強みを活かした日本最高レベルの専門的教育や技能訓練を提供します。
- 卒業生の地域就業と定住を促進します。

１－２　「木曽らしさ」を活かした地域づくり
～日本遺産にも認定された、優れた「観光資源」を活かす～

・平成 26 年の御嶽山噴火災害等で減少した観光客の入り込みを回復させます。
・世界に通用する「木曽ブランド」を再構築し、木曽らしい景観・雰囲気の中を国内外の人々が行き交う木曽路の実現を進めます。
・観光関係者が連携して地域資源の発掘や磨き上げを行い、観光客の満足度を高めます。

【現状と課題】

・木曽地域は豊かな自然や歴史、「日本遺産」に認定された文化遺産など豊富な観光資源に恵まれています。また、大都市（中京）圏からのアクセスも比較的良好です。
・観光客の入り込みは、平成６年をピークに低落傾向にありましたが、さらに平成 26 年の御嶽山噴火災害で大きく落ち込み、災害前の水準まで戻っていません。

【取組内容】

● **御嶽山噴火災害からの観光復興**
- 木曽観光復興対策協議会の活動など、災害からの観光復興を支援・推進します。

● **観光地域づくり　…木曽ブランドの再構築と発信、連携による広域観光を推進**
- 「日本遺産」を活かして、世界に通用する「木曽ブランド」の再構築を進めるとともに、木曽路固有の魅力の国内・世界へ向けた発信を推進します。（JAPAN といえば TOKYO, KYOTO, “KISO”,…）
- 「木曽路の眺望景観整備基本方針」に基づき、国道 19 号やＪＲ沿線、木曽川沿いなどの「眺望景観」の整備を進めます。
- 広域的な地域DMOの展開を支援するとともに、観光人材を継続的に育成します。

・ 木曽の観光地を組み合わせ、また、地域外とも組み合わせて滞在時間を延ばした観光を推進します。

例)「飯伊地域、岐阜県東濃・飛騨地域との広域観光ルート」(リニア中央新幹線開通を視野に)、「金沢・飛騨高山・木曽ルート」(伝統文化を楽しむインバウンドの定番コースに)

・ 始点から終点まで安全に歩いて楽しめる中山道・木曽路（中山道・木曽路トレイル）の整備と発信、「宿場」の活用を推進します。

・ 東京大学木曽観測所と連携し、美しい「星空」を活用した観光を推進します。

・ 海外の学校との交流を通じた、木曽の歴史と文化の発信を推進します。

・ 「すんき」などの発酵食品や「木曽産そば」「木曽牛」「御嶽はくさい」など、木曽ならではの食を活かした地域ブランディングを推進するとともに、地消地産を促進します。

・ 御岳県立公園の公園計画を、保護と利用の両面から、地域の意見を取り入れながら改定します。

２ 「御嶽山」の安全対策の推進と土砂災害の防止等
～時間経過による風化ではなく、着実に前進していく～

・御嶽山を、人々が火山であるという認識のもと安心して登れる山とするため、ハード・ソフトの防災対策を進めるとともに、噴火に備えた対応力の向上を図ります。

・土砂災害や地震などの自然災害に対する防災・減災力を高めます。

【現状と課題】

・御嶽山は敬愛を込めて「おやま」と呼ばれ、古より木曽地域内外の人々の心の拠り所として多くの人々が登山し、観光の拠点ともなっています。しかし、平成 26 年の噴火災害が示すように活火山ゆえの危険性もはらんでおり、観光客、特に登山者に対する安全性の向上が課題となっています。

・木曽地域は急峻な山々に面した谷あいの集落が多く、平成 26 年の梨子沢（なしざわ）土石流災害など豪雨による土砂災害の危険性が高いことから、ハード・ソフト両面において地域全体での防災・減災対策が必要です。

【取組内容】

● **「御嶽山」安全対策の充実 …大きな犠牲を生んだ災害の地として、火山防災の先進的な取組を推進**

・ 地域の拠点であり県立自然公園でもある御嶽山を、再び地域内外の人々が安心して登れる山とするため、関係機関が連携し、安全対策を着実に進めます。

- 登山道・避難施設整備、携帯電話不感地域解消等の支援
- 「御嶽山火山マイスター」の養成と火山防災知識の普及啓発
- 関係町村による「御嶽山ビジターセンター（仮称)」の設置・運営の支援
- 関係機関との情報共有・伝達体制等の連携強化、防災訓練の充実

● **地域の強靭化 … 「蛇抜け」などの土砂災害対策や地震対策を推進**

・ 集中豪雨や地震に備え、ハード（砂防・治山・農業関連施設の整備、住宅・建築物の耐震化促進等)、ソフト（「災害時支え合いマップ」の作成支援、総合防災訓練、医療救護訓練等）の両面で防災対策を推進します。

・ 災害発生時のライフラインを確保するため、岐阜県とも連携し、木曽川右岸道路の整備を推進します。

３ 人口減少下における人材の確保
～「木曽らしさ」の再認識と発信により流出を防ぎ、移住・定住、交流人口を拡大する ～

・木曽の良さ、田舎暮らしの良さがわかる人々が移住し、地元の人とお互いを尊重しながらつながりを持ち、生活を楽しみながら、新しい観点からまちづくりにも関わることを促進します。
・木曽で生まれ育った人たちが地元の良さを知り、学校卒業後も木曽で暮らしたり、Uターンして地元に定住することを促進します。
・木曽川の上下流交流などにより交流人口や木曽ファン（つながり人口）を増やします。交流も個人や自治体レベルから、学校や経済団体などへの拡大を図ります。
・地域の産業を支える人材の確保を支援します。

【現状と課題】

・木曽地域は県内で最も人口減少が著しく、特に若者の多くが進学や就職を機に地域外へ流出し、地域の活力の維持、産業の発展に必要な人材の不足が懸念されます。
・とりわけ多様な働く場の確保、地元企業と人材のマッチングなどが課題です。
・各町村とも移住・定住の促進に力を入れており、地域おこし協力隊の受け入れも増えつつありますが、ニーズに合った就労支援や住居の提供などが求められています。
・木曽川下流域である中京圏等と上下流交流（イベント、森林整備支援等）が盛んに行われています。

【取組内容】

● **地元企業と人材のマッチング …木曽には「魅力」と「働く場」があることを情報発信**
- 木曽の企業が求める人材像と学生・生徒が求める企業像、双方向の情報発信を木曽地域全体で実施します。
- 県名古屋事務所や大阪事務所と連携し、中京圏・関西圏を中心に大学生のインターンシップの受け入れを推進します。
- 小・中学生のうちから地元企業を知る取組を地域全体へ拡大するよう支援するとともに、将来の選択に役立つように「木曽のこと」（文化、歴史、生活など）の学びを促進します。

● **起業・就業支援　… 住民と行政の距離が近い木曽の利点を活かしたきめ細かな支援**
- 町村等と住民との距離の近さを活かして、関係者の連携の下、就業・起業希望者に対し、情報面や資金面で、総合的かつきめ細かに支援します。
- 木曽ブランドである「御嶽はくさい」「木曽牛」や、「木曽産そば」「赤かぶ」「えごま」など特色ある農業を維持・発展させていくため、関係機関と連携し、農業後継者・担い手の確保・育成を図ります。
- 地域の課題解決や地域の活性化を図る起業、木曽ならではの木工や伝統工芸関係の起業・就業支援を推進します。

● **移住・交流促進　… 外から人を呼びこみ、交流・連携で地域課題を解決へ**
- 県と町村等が広域的に連携し、木曽への移住を地域全体で促進します。
  例）相談窓口の一本化、「働き方・住まい方・暮らし方」をセットにした情報発信等
- 木曽川上下流交流は、個人や自治体レベルでの交流に加え、学校や経済界への交流拡大を図るとともに、交流による課題解決を促進します。
  例）上流の森林整備、木曽産木材の中京圏への販路拡大等
- 木曽川沿いの南北の交流に加え、高山市や伊那谷との交流、白巣峠を越えた交流など東西の交流も促進します。（木曽はかつて「文化の十字路」）

● **若者定住・Ｉターン・Ｕターン促進　…「木曽くらし」の良さを再認識**
- 関係機関と連携し、木曽の暮らしや地元企業の魅力を木曽地域全体で情報発信し、特に若者のＩターンやUターンを促進します。また、地元に定着しようとする若者の希望の実現を支援します。

４　生活基盤・経済活動基盤の確保
～県・市町村・関係機関が連携し、暮らしを支える基盤を維持する～

・人口減少下においても、住み慣れた地域で心豊かに安心して暮らし続けられるよう、基本となる医療、福祉、教育、産業、地域交通など生活・経済活動基盤の維持･確保を図ります。
・生活・経済活動基盤が確保されることにより、木曽が移住・定住先としても魅力ある地域として移住希望者等に選ばれ続けることを目指します。

【現状と課題】

・県立木曽病院が、二次救急医療など高度な医療を提供できる郡内唯一の病院として住民や観光客の健康、安心を支えていますが、医師・看護師が不足している状況です。
・児童・生徒数の減少に伴い、学級減などの課題に直面しています。
・高齢化の進行に伴い、通院などの生活の足としての公共交通の必要性が一層高まるものと見込まれます。
・治安の良さは木曽で暮らしていく上での大きな安心材料かつ貴重な財産であり、今後とも安全・安心な暮らしを守る拠点を充実させていくことが必要です（木曽警察署の改築等）。
・広域連携等により行政の効率化を図り、暮らしを支える公共的なサービスを持続的に提供できるようにすることが必要です。

【取組内容】

● **医療　… 木曽の救急医療の拠点「木曽病院」の機能堅持等**
- 木曽病院の機能を堅持するため、信州大学等の関係者の支援を求めるとともに、信州木曽看護専門学校等と連携し、必要な医師・看護師等の医療従事者を確保するよう努めます。
- 木曽地域南部から木曽病院への通院手段や、身近な医療機関である診療所が確保されるよう、町村等の取組を支援します。
- 木曽に住む人々の木曽病院に対する期待や感謝と医療従事者の医療に対する思いが相互に伝わるよう、関係機関と連携を図りながら医療従事者と地域住民との情報交流の機会を増やします。

● **福祉　… 地域包括ケアシステムの整備促進**
- 医療機関や福祉施設等と連携した地域包括ケアシステムの整備に向けて、主体となる町村や広域連合に情報提供等の支援を行います。

● **教育　… 多様な夢の実現に必要な教育の維持・充実**
- これまで木曽青峰高校と蘇南高校が木曽地域の人材育成等に果たしてきた役割を踏まえつつ木曽地域全体の高校の将来像を総合的に検討し、生徒の希望と地域の期待に即した教育の充実を図ります。
- 高等学校において、探究的な学びを促進します。また、多様な進学希望に応える教育環境の提供を検討します。
- 小規模校（小・中学校）について、新たに町村の枠を越えた連携や小・中学校間の教員交流を検討するとともに、小・中学校と特別支援学校との交流や共同学習を推進するなど、教育環境の維持・向上を支援します。

● **道路　… 木曽の大動脈「国道 19 号」と代替道路「木曽川右岸道路」等の整備**
- 木曽地域の基幹道路である国道 19 号の整備と、ソフト・ハード両面の交通安全対策を促進します。
- 様々な機能（災害時のライフライン、救急搬送輸送路、企業誘致や流出防止、リニア中央新幹線開業効果の波及等）を持つ「木曽川右岸道路」の着実な整備を推進します。
- 東西の交流を支える国道 256 号、361 号の整備を推進します。

● **交通　… 木曽全体で生活・通院の足を確保**

・ 生活や通院（木曽病院）の足として、また観光二次交通として欠かせない地域公共バスの広域運行化、利便性の向上を図ります。また、デマンドタクシー*等他の方法の活用拡大についても検討します。

・ リニア中央新幹線の開通を見据え、岐阜県駅及び長野県駅の周辺地域と連携して、リニア駅への交通アクセスの改善を促進します。

【 「連携」の推進 】

人口減少が進む木曽地域にあって、豊かな地域をつくり安全・安心な暮らしを維持していくためには、「連携」が重要です。

現在、木曽地域においては、県と町村等との広域連携による眺望景観の整備や移住・定住促進等の取組が始まっていますが、県、町村、広域連合、国などの行政機関はもとより、住民や民間企業・団体などあらゆる主体が、それぞれの強みを活かし木曽に適した形で「連携」し、地域の進むべき方向性を共有し、様々な課題に取り組み、地域のめざす姿を実現していくことが求められています。

さらには、木曽川下流域をはじめとする他の地域との連携の輪を広げ、深めていくことも重要です。

【達成目標】

指　標　名	現　状	目　標	備　　考
製材業の製品出荷量 長野県木材統計（林務部調）	13,705 ㎥ （2015 年）	15,075 ㎥ （2021 年）	丸太を製材（加工）した製品の出荷量（林業・木材加工業の高付加価値化に関する指標） ［現状の 10%増加を目標に設定］
観光客１人当たりの消費額単価 来訪者満足度調査（長野県観光機構調）	18,874 円 （2016 年度）	20,000 円 （2022 年度）	木曽地域内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の１人当たり平均支出額 ［飲食・買物等各１コインずつ（計 1,000 円）の増加を目標に設定］
観光地延利用者数 （観光部調）	221 万人 （2016 年）	290 万人 （2022 年）	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 ［御嶽山噴火前（H25）への回復を目標に設定］
外国人延べ宿泊者数 観光地利用者統計（観光部調）	17,973 人泊 （2016 年）	30,000 人泊 （2022 年）	木曽地域内の旅館やホテルに宿泊した外国人の延べ人数 ［大桑村以北のハイカー宿泊数について現状の3倍増加を目標に設定］
御嶽山噴火警戒レベルの認知度 （木曽地域振興局調）	― （2016 年）	100% （2022 年）	御嶽山噴火警戒レベルを認識している登山者の割合 ［情報提供の充実等を踏まえて設定］
災害時住民支え合いマップの作成済み地区数 （健康福祉部調）	157 地区 （2016 年度）	175 地区 （2022 年度）	木曽圏域内における災害時住民支え合いマップ作成済み地区数＜全地区数：292＞ ［年間３地区の作成を目標に設定］
移住者数 （企画振興部調）	69 人 （2016 年度）	94 人 （2022 年度）	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者等を除く県外からの転入者 ［県全体の目標をもとに設定］
新規就農者数（累計） （木曽地域振興局調）	8 人 （2016 年度）	10 人 （2022 年度）	木曽地域における 45 歳未満の新規就農者数（５か年の累計数） ［年間２名程度の新規就農を目標に設定］
特定健診受診率 （長野県国民健康保険団体連合会調）	54.7% （2015 年度）	58.7% （2021 年度）	特定健康診査対象者数に占める特定健康診査受診者数の割合（市町村国保分） ［県全体の目標をもとに設定］
木曽川右岸道路（南部）の整備率 （木曽建設事務所調）	50% （2016 年度）	60% （2022 年度）	木曽川右岸道路（南部）の計画延長のうち、整備した延長割合 ［整備スケジュールをもとに設定］
水質の環境基準達成率（河川） 水質測定結果（環境部調）	100% （2016 年度）	100% （2022 年度）	木曽地域の主要河川の環境基準（BOD）達成地点数の割合（基準達成地点数/水質常時監視地点数） ［現状の維持を目標に設定］